

## 基礎科学（化学）

科目責任者 梅 澤 規 子  
学年・学期 1 学年・1 学期

### I. 前 文

自然科学の基礎となる学問に物理学，数学，化学，生物学，地学などが挙げられる。これらの自然科学を基礎とする医学を学ぶには，基礎科学全般の幅広い知識が必要となる。基礎科学（化学）では，高校で化学を履修しなかった学生を対象に，基礎的な内容から講義するとともに，他の科目でも扱われる関連の深い内容はより重点的に補強していく。短期間に多くの量を講義するので，復習を丹念に行なってほしい。

### II. 担当教員

梅 澤 規 子（基盤教育部門）

### III. 一般学習目標

基本的な化学の概念を理解する。

### IV. 学修の到達目標

1. 化学の基本的な用語を理解し，説明することができる。
2. 化学の基本的な現象を理解し，説明することができる。

### V. 授業計画及び方法 \*（ ）内はアクティブラーニングの番号と種類

- （1：反転授業の要素を含む授業（知識習得の要素を教室外で済ませ，知識確認等の要素を教室で行う授業形態。）  
2：ディスカッション，ディベート 3：グループワーク 4：実習，フィールドワーク 5：プレゼンテーション  
6：その他）

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブラーニング
1	4	20	水	1	物質の状態	梅 澤 規 子	1
2		21	木	3			
3		27	水	1			
4		28	木	3	化学反応とエネルギー		1
5	5	11	水	1			
6		12	木	3	化学反応の速さ		1
7		18	水	1			
8		19	木	3	化学平衡		1
9		25	水	1			
10		26	木	3			
11	6	1	水	2			

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
12	6	2	木	3	有機化合物	梅 澤 規 子	1
13		8	水	1			
14		9	木	3	高分子化合物		1
15		16	木	3	まとめ		

#### VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

定期試験（60%），小テスト・レポート課題など（40%）

#### VII. 教科書・参考図書・AV資料

〔参考書〕改訂化学，東京書籍

四訂版リードLightノート化学，数研出版編集部

生命科学系のための物理化学，Raymond Chang 著，東京化学同人

その他資料は適宜配布，提示する。

#### VIII. 質問への対応方法

原則平日9時～17時の間に随時対応する。

不在の場合もあるので事前にアポイントをとることを推奨する。連絡先等は講義中に説明する。

但し，試験期間中は対応しない。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

\*◎：最も重点を置く DP    ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料、情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	○
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義中もしくはLMSを通して行う。

XI. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

シラバス別冊に記載。なお、シラバス別冊に記載が無い場合、要点を確認しておくこと。（所要時間の目安：20分）

XII. コアカリ記号・番号

A-2-2), A-9-1)